

<様式>

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|------|---------|---------|--|--|----------------|--|-----|-----------|--|-----|------------|--|
| 学 校 名 | 山形市立大曾根小学校 山形市上反田 2 7 8 番地 TEL 643-2134 FAX 645-8614 | 校 長 | 土 田 正 路 | | | | | | | | | | | |
| | | 研究主任 | 高 木 千 鶴 | | | | | | | | | | | |
| 研 究 主 題 | 自立した学び手の育成（1年次） ～子どもの自己調整力と粘り強さを育む授業づくりをめざして～ | | | | | | | | | | | | | |
| 研 究 主 題 設 定 の 理 由 | <p>本校では、「大曾根に誇りをもち、未来を拓く子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、学びを生かして、地域をつくる人に成長してほしいという願いを込め、次のような子どもの姿を目指して教育活動を行っている。</p> | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"><tr><td colspan="3">目指す子ども像</td></tr><tr><td>主体的に考え 学び合う子ども</td><td></td><td>(知)</td></tr><tr><td>心が通い合う子ども</td><td></td><td>(徳)</td></tr><tr><td>仲間と鍛え合う子ども</td><td></td><td>(体)</td></tr></table> <p>生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間のない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0」の到来や新型コロナウイルス感染症などの先行き不透明な「予測困難な時代」となっている。このような時代にあって、学校教育には、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。</p> <p>そうした社会的背景の中、本校では令和2年度より、3年間「確かな学力を育む授業づくりをめざして～新しい時代に必要な資質・能力の育成と学習評価の充実～」と主題を設定し、「指導と評価の一体化」を重視した研究を進め、学級カリキュラムを基盤とし、日々の授業において評価・改善を繰り返しながら、子ども一人一人に確かな学力を育成することを目指してきた。</p> <p>評価規準を子どもの姿で具体化することにより、学習の成果を適切に捉え、改善が必要な指導過程や具体的な手立ての検討を行い、深い学びの実現に向けた授業改善を進めることができた。習得した知識や技能を多様な場面で活用・発揮する姿や、根拠を明確にししながら自分の考えを表現する姿が見られるなど、子どもたちは学校として育成を目指す資質・能力を着実に身に付けてきている。</p> <p>一方で、学習意欲が向上し、見通しをもって学習に取り組む姿が見られるようになったものの、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組むまでに至っていないことが課題として見えてきた。さらに、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を「すべての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学び」として、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない学校教育の実現が求められている。</p> <p>そこで、今年度は、これまでの研究の成果を生かしつつ、これまで以上に子どもの成長やつまづき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえて指導・支援することや、子どもが自ら学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるようにしていきたいと考えた。以上を踏まえ、本校の研究主題を「自立した学び手の育成～子どもの自己調整力と粘り強さを育む授業づくりをめざして～」と設定した。子どもたちが求める多様な学びの機会を柔軟に提供し、学習の成立に向けて一人一人の子どもを丁寧に見取りながら、ICTの効果的活用と児童一人一人に寄り添った指導、学習活動・機会の充実を図っていきたい。</p> | | | 目指す子ども像 | | | 主体的に考え 学び合う子ども | | (知) | 心が通い合う子ども | | (徳) | 仲間と鍛え合う子ども | |
| 目指す子ども像 | | | | | | | | | | | | | | |
| 主体的に考え 学び合う子ども | | (知) | | | | | | | | | | | | |
| 心が通い合う子ども | | (徳) | | | | | | | | | | | | |
| 仲間と鍛え合う子ども | | (体) | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|------------|------------|------------|-----------|------------|--|
| 研究のねらい | 自己決定を大事にした学習・活動を推進することで、自立した学び手を育成する。 | | | | | | |
| 学びづくりの視点 | <p>◇自己決定できる単元の構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人一人の興味・関心や学習スタイルが最大限許容され、発揮できる単元を構想する。(課題選択学習、順序選択学習、課題設定学習、単元内自由進度学習、フリースタイルプロジェクト等) <p>◇子どもの自律的な学びを支援する学習の手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元のねらい、学習内容、時数、標準的な学習の流れ、利用可能な学習材(教科書、学習カード、メディアなど)や学習の機会(実験、観察、調査、体験、ものづくりなど)についてわかりやすくした学習の手引きを提供し、子どもの自律的な学びを支援する。 <p>◇子どもの学びを引き出す学習環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習環境を整え、子どもと環境の関わりの中で生まれる気づきや問いを課題とし、間接的に子どもの学びを支援する。(いつでも自由に見たり触ったりできる展示コーナー、体験・活動コーナーの設置、マルチに機能する掲示、多様な情報や物品の準備、ICTの効果的な活用等) | | | | | | |
| 研究の重点 | <p>◇自己決定できる単元の構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人一人の興味・関心や学習スタイルが最大限許容され、発揮できる単元を構想する。(課題選択学習、順序選択学習、課題設定学習、単元内自由進度学習、フリースタイルプロジェクト等) ・ICTを効果的に活用する。(導入、展開、週末、まとめ等で) | | | | | | |
| 研究の進め方 | <p>(1) 研究の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期 先進校の視察や研究会への参加、文献研究、講師招聘など。 ・2学期 研究授業を通して、互いの実践に学ぶ。 ・3学期 子どもの変容等をもとに実践の成果と課題を明らかにする。 ・研究の積み上げの確認、子どもの変容、教師の授業改善のための手立てなどを全体で語る場として、2月に全体会を行い、1年間の研究の成果と課題を研究集録にまとめる。 <p>(2) 研究計画</p> <p>※研究全体会 5月15日(月) 2月5日(月)</p> <p>※授業研究会の日程</p> <table data-bbox="300 1621 986 1727"> <tr> <td>①10月11日(水)</td> <td>②11月15日(水)</td> </tr> <tr> <td>③11月29日(水)</td> <td>④12月6日(水)</td> </tr> <tr> <td>⑤12月20日(水)</td> <td></td> </tr> </table> | ①10月11日(水) | ②11月15日(水) | ③11月29日(水) | ④12月6日(水) | ⑤12月20日(水) | |
| ①10月11日(水) | ②11月15日(水) | | | | | | |
| ③11月29日(水) | ④12月6日(水) | | | | | | |
| ⑤12月20日(水) | | | | | | | |